

第1課 エジプトの神々よりも強いお方

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。「お話の前に」を始めます。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。



9つの災い

準備: 目かくし、赤いパンチ(ジュース)、ふたのついたコップ、ポップコーン、

未調理の米か豆、小さくて丸いシール(事務用品売り場にあります)

◎ 活動

- ・クラスを4人ずつのグループに分けます。
- ・各グループの3人に目かくしをし、片手に米か豆を握らせませす。
- ・その子たちには教室の一方の端に居てもらいます。
- ・4人目の子は、目かくしをせずに教室のもう一方の端に行きます。
- ・その生徒の横に、赤いパンチとポップコーン、丸いシールを置きます。
(パンチは必ずふたのついたコップに入れておいてください。
そして、各グループに同じ量のポップコーンとシールがあるようにしてください)
- ・次の指示を伝えます。

「このゲームは、神さまがエジプトに下された災いを表した、『9つの災い』というゲームです。」

「目かくしをした3人は、暗やみの災いを表しています。」

「そして、手に持った米(か豆)は、ぶよやあぶ、いなごを表しています。」

「目かくしをした人たちは、目かくしをしていない子のいる、教室の反対側までかえる跳びをしています(かえる跳びは、かえるの災いを表します)。」

「けれども、目かくしをしていない人は、「モー」と言うことしかできません(家畜への災いを表します)。」

「教室の反対側に着いたら、目かくしをした人の1人は赤いパンチ(ナイル川の災いを表します)を見つけて、自分のチームの目かくしをした人に飲ませます。」

「また、1人は、ポップコーンを見つけて(雹を表します)、自分のチームの目かくしをした人に食べさせます。」

「そして、もう1人は、丸いシール(うみの出るはれ物を表します)を別の1人に貼ります。」

「全部終わったら、目かくしをした3人は、元の場所にかえる跳びで戻ります。」

「もし米(か豆)を落としたり、一粒ずつ拾わなければなりません。」

「では、目かくしをした人としていない人で集まって、合図を決めましょう。」

「例えば、「モー」と1度言えば左に行き、2度言えば右に行く、といった感じです。」

◎ 話し合しましょう

- ・「このゲームは簡単でしたか。難しかったですか。」
- ・「このゲームをするのは、災いの起きていたエジプトに住んでいるのと、どういうところが似ていると

思いますか(混乱した、何が起きているのか誰にもわからなかった、イライラした、おかしい感じがした)。)(ゲームと言ってもこの場合勝ち負けを競うというよりは体験することが目的)

- ・「どうしてこのゲーム(または安息日学校でする色々なゲーム)をしたと思いますか(大切なことを忘れないようにするため、何かを教えるため)。」
- ・同じ理由で、神さまはエジプトに災いを送られました。ファラオやその他のエジプト人たちにわかりやすい方法で、彼らの心に働きかけようとしておられたのです。神さまは今もそうしておられます。」
- ・「今週のメッセージを覚えましょう。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは私の心に働きかけておられます。

B かたい心、やわらかい心 準備:カチカチになった粘土、水、つまようじ

◎ 活動

- ・あらかじめ、粘土で、子どもの人数分の小さなハートを作っておきます。
- ・それを一晩置か低温のオーブンに入れて乾燥させます。
- ・クラスで、子どもたちにそのハートとつまようじを配ります。
- ・今日のメッセージをつまようじでそのハートに書くように言います。
- ・多分粘土がかたすぎて書けないと言ってくるでしょう。
- ・ハートに水を数滴たらして、やわらかくさせます。

◎ 話し合いましょ

- ・「かたいハートにメッセージを書くのは簡単でしたか(いいえ)。」
- ・「ハートに書けるようにするために、どうしましたか(水でやわらかくした)。」
- ・「今日の聖書のお話では、神さまがファラオというエジプトの王様の心に働きかけようとしておられます。けれどもファラオはかたい心の持ち主でした。神さまは色々な方法で、ファラオの心をやわらかくしようとしましたが、どれ一つとして効果がありませんでした。」
- ・「神さまがファラオの心に働きかけられたように、『神さまは私の心に働きかけておられます。』」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょ。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは私の心に働きかけておられます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金

- ・「“Open Our Eyes, Lord”を歌いながら、人々が神さまを知るための献金を捧げましょう。」

◎ お祈り

- ・「神さまは、私たちを救い、私たちが神さまと一緒に永遠に生きられるようになることを何よりも望んでおられます。神さまは私たちの心に働きかけておられます。両手を胸にあててお祈りしましょう。」生徒たちが神さまの働きかけに心を開くことができるように祈ります。

第2課 わすれられない夜

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 2種類のパン 準備: 種無しパン、イーストを使った普通の食パン

◎ 活動

- ・イースト(種)入りパンと、イースト(種)無しパンの食べ比べをします。
- ・種無しパンと普通の食パンを皿に乗せます。
- ・子どもたちは両方のパンを食べてみます。
- ・どちらが好きか、そしてその理由を聞いてみましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「今日の聖書のお話では、神さまが最初の過越しの日に、種無しパンを食べようと人々に命じています。」
- ・過越しの日とは、神さまが人々をエジプトから導き出した日のことです。
- ・「でも、なぜそんな命令をなされたのでしょうか。コリント1・5:7、8を読みます。」
- ・「パン種は、何を表していますか(罪)。この特別なパンは、イスラエルの人々に何を思い出させますか(自分たちの生活から罪を取り除かなければならないこと)。」
- ・「ユダヤ人たちは、エジプト、そして罪から救い出されたことを記念して、1年に1度、種入れぬパンのお祭りとして、1週間種無しパンを食べていました。」
- ・「この種無しパンを1週間食べるとしたら、どうですか(嬉しい、イヤだ、自分にとって特別なことを思い出す機会になると思う)。」
- ・「教会やお家でお祝い事をするとき、このメッセージを思い出してください。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょ。」

メッセージを一緒に言いましょ

お祝いをすることで、神さまが私のためにしてくださったことを思い出せるのです。

B 覚えられるかな?

◎ 活動

- ・子どもたちと一緒に輪になって座ります。
- ・右側の子どもの耳に、8~10単語の文をささやきます。
- ・その子も自分の右側の子に同じ文をささやいていき、そうやって輪の中を一周させます。

・最後の子どもに、その文章をみんなに言ってもらいます。

◎ 話し合しましょう

- ・あなたが最初の子どもに耳打ちした文章を言います。みんなで、2つの文がどう違うのかを話し合います。
- ・「こういうことは、よくあります。みんなは、自分は聞いたことをきちんと思い出さることができたと思いましたが(はい、まあまあ、いいえ)。」
- ・「私たちは、よく覚えていられないことがあります。神さまは、イスラエルの人たちが祭りを守ることで、神さまのなさったことを忘れないようにされました。私たちにもお祝いごとが必要です。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょ。」

メッセージを一緒に言いましょ

お祝いをするので、神さまが私のためにしてくださったことを思い出せるのです。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょ。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入るお話を讀みます。

◎ 献金 準備:袋か封筒を取り付けたおもちゃの羊

- ・「今月は、神さまの恵みについて学びます。」
- ・「神さまは、私たちを愛しておられるので恵みをくださいます。私たちが自分から受け取りに行くものではなく、神さまの方から、私たちにプレゼントしてくださるのです。私たちが神さまにとって特別な存在だからです。今日は、過越しのときの羊と、その羊が表す神さまの恵みについてお勉強しました。」
- ・「私たちの今日の献金は、人々が、神さまの恵みについて聞き、理解するのに助けるために使われます。」

◎ お祈り

- ・「子どもたちに、神さまからいただいた贈り物で、感謝したいものを挙げさせます(ヒントをあげなければならぬかもしれません。食べ物、住むところ、家族、などです)。」

・「お祈りの中で、神さまからのたくさんの贈り物と、その恵みを忘れないように記念のお祝いも与えてくださっていることに感謝しましょう。」

第3課 きせきのような助け

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。



雲の導き

準備: 懐中電灯、テープか輪ゴム(懐中電灯と同数)、

「エンジェルヘアー(クリスマスツリー用の白い糸状の飾り)」「(または綿)、

赤いセロファン(または赤くて軽い布)

◎ 活動

- ・2、3人に1つずつ懐中電灯を用意します。
- ・また、「エンジェルヘアー」(または綿)と、懐中電灯の先を覆うための赤いセロファン(または赤くて軽い布)も用意しましょう。
- ・セロファンを懐中電灯にしっかり取り付け、テープか輪ゴムで止めます。それからその部分を「エンジェルヘアー」で覆います。
- ・子どもたちを2、3人のグループに分けます。
- ・「今日は、神さまが、昼は雲の柱、夜は火の柱でイスラエルの人々を導いたというお話をする」と言いましょ。神さまはご自分の民を導くための良い計画を持っておいででした。
- ・子どもたちは順番に懐中電灯を持って、他の子どもたちを「導き」ます。電源を入れなくておくと雲の柱、入れると火の柱を表すことができます。

◎ 話し合いましょ

- ・「雲や火の柱の後について歩いてみたいと思いませんか。」
- ・「神さまはみんなのことをどうやって導いて守っておられるのでしょうか(聖書を通して、周りの人たちを使って助けてくださる、色々な状況を通して)。」
- ・「どこへ行ったら良いのか、何をしたら良いのかわからなくなったら、どうしたらいいですか(お祈りする、神さまを信頼する、親や先生に聞いて言われたことを聞く)。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょ。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは私のためのご計画を持っておられ、

私のことをいつも心にかけてくださっています。

B 水を分ける 準備: 浅い洗面器か洗いおけ、水、ストローか厚紙またはうちわ

◎ 活動

- ・洗面器か洗いおけのような小さくて浅い容器に、半分ほど水を入れておきます。
- ・子どもたち一人ひとりに、ストローやうちわで、または自分で強く息を吹きかけたりして、水を分けることができるかどうかやらせてみましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「強い風が吹いている中を歩いたことがありますか。そのときどんな感じがしましたか(イヤだった、怖かった、面白かった)。」
- ・「台風のような大風が吹いて、家を壊したり人にけがをさせたりすることがあります。今日の聖書のお話では、神さまが強い風を送って、ご自分の民を助けられました。風が吹いて、紅海という広い海の中に乾いた道をつくり、イスラエル人がエジプト人から逃げられるようにしたのです。」
- ・「このことから、私たちの神さまについてどんなことがわかりますか(神さまには力があるということ、自然をコントロールすることができるということ、神さまには何でもできるということ、神さまは人々のことを心にかけておられるということ)。」
- ・「あなたが困ったことになったとき、どんなことを思い出せばいいですか。」
- ・「今日のメッセージと一緒に言いましょう。」

メッセージと一緒に言いましょう

神さまは私のためのご計画を持っておられ、
私のことをいつも心にかけてくださっています。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備: 綿をつけて、雲のようにした献金入れ

- ・「今日のお話には、神さまがご自分の民のイスラエル人を心にかけてつくった雲の柱が出てきました。私たちの献金は世界中の人々に、神さまがその人たちを愛し、心にかけておられることを伝えま

す。みんなで“Wonderful, Wonderful”を歌いながら、献金を捧げましょう。」

◎ お祈り

- ・子どもたちに、自分たちの生活の中に、導きや助けを必要としているものがあるかどうかを尋ねます。
- ・それから祈りのパートナーを選ばせます。
- ・「パートナーに、何を祈ってほしいのか聞いてください。そのパートナーはどんな点で神さまの導きと助けを必要としているのでしょうか。それからお互いに、神さまが自分のパートナーを導き助けてくださるよう祈ってください。」
- ・最後に全体で、神さまが私たちに対する計画を持っておられ、私たちをいつも心にかけてくださることに感謝の祈りを捧げます。

第4課 神さまのすがた

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 十戒の板 準備: 粘土、つまようじ

◎ 活動

- ・子どもたちは粘土のかたまりで、十戒の板のレプリカをつくります。
- ・つまようじを使って、表の面にローマ数字の I から X を彫り、裏に自分のイニシャルを彫ります。
- ・これは取っておいて来週の学びの中で使います。
- ・今週来ていない生徒のために、予備をつくっておきましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「今週のお話は、神さまの十戒についてです。」
- ・「神さまのくださった戒めについてどう思いますか(そのおかげで良い生活ができるので好き、よくわからない、厳しすぎる)。」
- ・「十戒は、神さまが、私たちと神さまとの関係、そして私たちと周りの人との関係をどうしてほしいと思っておられるかを教えてください。十戒を何か知っている人はいますか。」
- ・子どもたちの答えを聞きます。
- ・「その律法は、神さまについて何を教えてくれていると思いますか。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまの律法は神さまを知る助けになります。

B 私是谁でしょう 準備: 有名人の写真、厚紙、テープ

◎ 活動

- ・あらかじめ、写真の裏に厚紙を貼って、曲がらないようにしておきます。
- ・顔の各パーツを切り離し、クラスで1パーツずつ組み立てられるようにします。例えば、髪、目、鼻、口など、特徴のある部分を切り取っておいてください。
- ・クラスでは、一番わかりにくそうなパーツから埋めていきそれを壁か黒板にテープで貼り、「これが誰だかわかりますか。」と聞きます。
- ・同様に別のパーツを加えて「これが誰だかわかりますか。」と聞いていきます。
- ・子どもたちが当てられるまで続けましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「この人はみんなのよく知っている人でしたが、顔の全体が見えなかったときに当てるのは簡単でしたか。」
- ・「顔のパーツを加えていくたびに、誰の写真なのかわかってきましたね。」
- ・「神さまの十戒もそのようなものです。イスラエルの人々は400年もの間どれい生活を送ってきたので、もう神さまのことがよくわからなくなっていることを、神さまは知っておられました。ですから十戒を通して、神さまの写真を見せてくださったのです。」
- ・「その十戒の律法の一つひとつは、この〇〇さんの写真の髪や鼻や目のようなものでした。それは私たちに、神さまがどんなお方であるかをよくわかるようにしてくれます。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまの律法は神さまを知る助けになります。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間 準備: 安価なプレゼントを人数分

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょう。
- ・子どもたちを周りに集め、全員に、鉛筆や小さなおもちゃといったプレゼントをあげましょう。
- ・毎週みんなに会えて嬉しいということ、神さまが、みんなに神さまのことを伝えるように自分を選んでくださって感謝しているということを伝えます。
- ・クラスの前に、一人ひとりの素晴らしい点を少なくとも1つずつ書いたリストをつくっておき、みんなが聞いている中でそれを読み上げます。
- ・それからプレゼントをあげた理由を伝えます。
- ・「みんなはとても特別な存在で、先生はみんなと一緒にいることが大好きだからです。」

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金

- ・「今日は、十戒と、十戒が神さまのことを教えてくださるということについてお話しました。世界の多くの人々が、神さまを知りません。または、神さまが本当はどんなお方であるかをわかっていません。みんなで“Wonderful, Wonderful”を歌う間に、私たちの素晴らしい主を人々に知ってもらうための献金を持ってきてください。」

◎ お祈り

「私たちは今神さまの恵みについて学んでいます。十戒という贈り物を通して、私たちが神さまについて知ることができるようにして下さった神さまの恵みに感謝しましょう。」

・それから、詩編119:18、33を元にしたお祈りを一緒にしましょう。

・「『わたしの目の覆いを払ってください／あなたの律法の驚くべき力に／わたしは目を注ぎます。…
…主よ、あなたの掟に従う道を示してください。』アーメン。」

第5課 こわされた石の板

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A

壊す? つくる?

準備: 大きな(1メートルほどの高さの)十戒の輪郭のボード

◎ 活動

- ・十戒の輪郭の上に何本かの線を引いて、いくつかに分割します。
- ・線を切り離してパズルをつくります。子どもたちはグループでパズルを元の形に組み立てます。
- ・「罪は私たちの生活に問題をもたらします。けれども、もし私が十戒を破ってしまうことがあっても、神さまにお願いしたら許していただけます。そして、神さまは私をまた元の状態に戻してくださるのです。」

◎ 話し合いましょう

- ・子どもたちの答えを聞きながら質問してください。
- ・「何かを壊してしまうのと、それを元に戻すのとでは、どちらが簡単でしょう。」
- ・「何か間違ったことをしてしまったら、どんな気持ちになりますか。」
- ・「十戒を破ってしまったらどんな気持ちになりますか。」
- ・「聖書には、私たちが間違ったことをしてしまったときに、神さまはどうかさと書いてありますか。」
- ・詩編86:4を一緒に読みましょう。
- ・「間違ったことをしたら、どうしたら良いですか。すると、どうなるでしょう。」
- ・ヨハネ1:1:9を読みましょう。
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは私を愛し、
どんなことをしてしまっても許していただけます。

B

岩に書く

準備: 石(様々な形とサイズのもの)、石けん、水、ペーパータオル、

フィンガーペイント、ビニール袋

◎ 活動

- ・石とフィンガーペイントを配ります。
- ・子どもたちはその石をフィンガーペイントで装飾して、自分の名前を書きます。

- ・使ったものを片づけて、石けんと水、ペーパータオルできれいにします。
- ・他の事をしている間その石を乾かしておきます。
- ・クラスの終わりにビニール袋に入れて家に持ち帰ります。

◎ 話し合しましょう

- ・「石に書くのはどんな感じがしましたか(子どもたちの答えを聞きます)。」
- ・「今日のお話では、神さまが、ご自分の指で2枚の大きな石に十戒を書いて、イスラエル人に与えました。それは本当は、全世界の人のためになさったことだったのです。」
- ・「なぜ神さまは2枚の石にご自分の指で書かれたと思いますか(私たちが神さまのものを持つことによって神さまのことをよく知ってほしいと思われたから、石は私たちに神さまの十戒は永遠のものであるということを思い出させるから)。」
- ・「これから、人々が神さまの十戒を破ったとき、モーセが十戒の板を壊してしまったという話をします。けれども神さまは彼らを許し、新しい石に十戒を書いてくださいました。」
- ・「そのことについてどう思いますか(神さまが許してくださる忍耐強いお方なのが嬉しい、石が壊されても神さまの律法は有効だということに気づかされる)。」
- ・「あなたはどんなことを覚えておきますか。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは私を愛し、
どんなことをしてしまっても許して下さいます。

◎ **無料です!** 準備:「無料」のクーポン、広告、ラベルなど、はさみ、厚紙、のり

◎ 活動

- ・安息日まで、できるだけ多く「無料」のクーポンや広告、ラベルなどを集めてください。
- ・「無料」と書いてあるものなら何でもかまいません。
- ・子どもたちは「無料」という言葉を切り抜き、それを厚紙に貼り付けてコラージュをつくります。

◎ 話し合しましょう

- ・「『無料』という言葉はあなたにとってどんな意味がありますか。」
- ・「神さまは、神さまのお恵みは無料の贈り物だとおっしゃっています。」
- ・エフェソ2:8を読みます。
- ・「私たちは自分の力でそれを得ることはできません。そして、私たちが何をしても、神さまはそれをご下さることを拒否なさることはありません。神さまの愛と許しは無料の贈り物なのです。」
- ・「今日のメッセージを言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは私を愛し、
どんなことをしてしまっても許して下さいます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょ。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備:「おっと!」という札をつけた献金入れ

- ・「恵みとは、神さまが私たちのことを愛しておられるので下さるものです。たとえ私たちが間違ったことをしても(「おっと!」)、神さまは私たちを愛し許して下さいます。」
- ・「今日の献金は、人々が、神さまが自分たちのことも愛し許して下さるということを知るために使われます。」
- ・「みんなで“Wonderful, Wonderful”を歌いながら献金を捧げましょ。」

◎ お祈り

- ・「神さまの恵みがあるので、私たちは神さまの許しに頼ることができます。神さまは愛と許しを押し付けることはなさいません。私たちがそれを求めるときに、下さるのです。」
- ・「神さまに許していただきたいことを何か考えてください。今からみんなで黙禱をします。心の中で神さまにごめんなさいと言って、許して下さいとお願いましょ。それから感謝することを忘れないでください。」
- ・「その後みんなで、イエスさまの教えて下さった『主の祈り』をしましょ。」

第6課 神さまの家

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A タレント・ショー 準備: 紙、鉛筆、マーカー、のり、はさみ

◎ 活動

- ・「今月は、礼拝についてと、神さまを礼拝するために私たちのタレント(才能)、時間、そして力をどうやって使ったら良いかというお話をします。」
- ・来週のタレント・ショーのための計画を立てます。
- ・子どもたちに、自分のタレントを表すシンボルをつくるための材料を配ります。
- ・また、安息日学校のほかのクラス(大人のクラスを含む)に、タレント・ショーへの招待状もつくりま
- す。
- ・出来上がったシンボルは、「私たちは神さまを礼拝するために、自分のタレントを捧げます」と書いた看板のところに貼ります。
- ・子どもたちが、礼拝や神さまの働きのために使える自分のタレントを思いつくよう、手助けしてください。

◎ 話し合しましょう

- ・「今日は、イスラエルの人々が、神さまのお家を建てるために喜んで捧げ物をしたということについて学びます。」
- ・「神さまは私たちに、お金、タレント(才能)、時間、力、そして他にも多くの物をくださいました。私たちはそれを神さまのお働きのために捧げることができます。これも神さまを礼拝する方法の一つです。」
- ・「みんなは、神さまのために、教会でどんなことができますか(歌うことができる、お小遣いを献金することができる、自分の時間を使って教会でお手伝いができる)。」
- ・「神さまにお捧げすると、どんな気持ちになりますか(お捧げできて嬉しい、神さまは私にたくさんものをくださったので)。」
- ・「みんなは、神さまの教会に何を捧げますか(献金を捧げる、教会をきれいにする、プログラムのお手伝いをする)。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまに捧げ物をお捧げすることは、

神さまを礼拝するのと同じです。

B

献金箱

準備：厚紙で出来た小さな箱、シールつきラベル、紙、鉛筆

◎ 活動

- ・一人ひとりに小さな厚紙の箱と、「献金をお捧げすることは、神さまを礼拝することです」と書いたシールつきラベル(またはマスキングテープ)を配ります。
- ・もし小さな箱が手に入らなければ、堅い紙を使って自分たちでつくっても良いでしょう。
- ・子どもたちの手形を紙に写し、切り抜いて、箱の側面に貼りつけます。
- ・手形の中央に、その子の名前を書いてシールつきラベルを貼ります。
- ・出来上がった献金箱は、献金の時間に見えるところにおいておきます。
- ・子どもたちは自分の箱に献金を入れます。そのとき、献金は礼拝だということをもう1度確認します。
- ・献金箱は持ち帰って、来週の安息日の献金を用意するために使っても良いでしょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「安息日学校で献金をするのはなぜでしょう(神さまの働きを助けるため、神さまの恵みに感謝するため、自分がそうしたいから、神さまを愛しているから)。」
- ・「神さまはお金持ちのお方です。なぜ神さまは献金をするようにおっしゃるのだと思いますか(私たちも分かち合うという恵みが得られるから、わがままにならないように)。」
- ・「献金するのは、そうしたいからですか。それとも、そうしないといけないからですか(子どもたちの答えを聞きます)。」
- ・コリント2・9:7を読みます。
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまに捧げ物をお捧げすることは、
神さまを礼拝するのと同じです。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入るお話を讀みます。

◎ 献金 準備:「お話の前に」B でつくった献金箱か、

今期の十三回献金が送られる場所を表した献金入れ

- ・「これから数週間、神さまを礼拝することについてもっと学んでいきます。」
- ・「先月は、恵みはイエスさまが私たちが愛しておられるので、無料でくださるプレゼントだということを知りました。今は、礼拝は私たちがイエスさまを愛しているからお捧げするものだということを知っています。」
- ・「礼拝には色々な方法があります。その中でも特別な方法の一つが、安息日学校にお金という贈り物を持ってくることです。神さまは、このお金の贈り物をどうやって使ったら周りの人々が神さまの恵みや礼拝について知ることができるか、教会の大人たちに教えてくださいます。」
- ・「今日献金を捧げるとき、この献金を通して神さまを礼拝しているのだということを忘れないください。」

◎ お祈り

- ・「お祈りは、とても特別な形の礼拝です。私たちはイエスさまとお話するとき、礼拝をしています。」
- ・「お友達や家族の中に、一緒にいてお話しすると楽しい人はいますか。お祈りもそのようなものです。」
- ・「特別なお友だちのイエスさまと、お話しするのです。イエスさまは、私たちがイエスさまとお話しすることで礼拝するのをとても喜ばれます。」
- ・「今日イエスさまに感謝したい特別なことが何かありますか。」
- ・祈りの課題と感謝することを挙げてもらいます。

第7課 助け、求む！

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A タレント・ショー 準備: 紙、鉛筆、マーカー、のり、はさみ

◎ 活動

- ・タレント・ショーのためのディスプレイをつくる作業を続けます。
- ・子どもたちに、自分が神さまから与えられた特別な能力を表す物をつくるよう指示します。
- ・それを、「私たちは神さまを礼拝するために、自分のタレントを捧げます」と書いた看板の近くに置きます。
- ・他の安息日学校クラスの人たちにも、ディスプレイを見にきてもらいましょう。
- ・子どもたちには、自分たちのタレントを説明する準備をさせておきます。

◎ 話し合しましょう

- ・「神さまは私たちに、自分の能力を捧げるだけではなく、その能力を神さまのために使ってほしいと思っておられます。」
- ・「神さまはみんなに、神さまのために使えるどんな能力をくださっているでしょうか。」
- ・「自分が教会でその能力をどうやって使っているか。みんなに教えてください。」
- ・「自分のタレントや能力を神さまのために使うとき、どんな気持ちになりますか。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまの働きのために私の力を用いることは、

神さまを礼拝するのと同じです。

B 織物 準備: 小さな織り機か、木でできた四角形と釘、

かがり針、糸、ゆるく織ってある織物、毛糸

◎ 活動

- ・子どもたちに小さな織り機を配ります。
- ・織り機は手芸店で買うこともできますし、木でできた四角形の端から同じ数の釘を突き出させてつくることもできます。
- ・子どもたちは、毛糸か、鍋敷きをつくるような素材を使って、織物の練習をします。
- ・この作業をするテーブルに、縫い物用に、大きなかがり針、糸、ゆるく織ってある織物を置いてお

いても良いでしょう。

- ・子どもたちに、神さまの家のために使われるなら、織り物や縫い物をするのも礼拝なのだということ伝えてください。

◎ 話し合しましょう

- ・「今までに、自分で縫ったり織ったりしたものを誰かにプレゼントしたことはありますか。」
- ・「それをプレゼントしたとき、どんな気持ちになりましたか。」
- ・「そうやって縫ったり織ったりしたことが、どうして神さまを礼拝することになるのでしょうか。」
- ・マタイ25:40を読みます。
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまの働きのために私の力を用いることは、
神さまを礼拝するのと同じです。



シルエット

準備: スライドプロジェクターやスポットライトなどの明るい光、

黒い工作用紙、はさみ、鉛筆かマーカー、「私は、言うことや
すること全てで神さまを礼拝したいです」と書いた看板

◎ 活動

- ・黒い工作用紙を壁に貼り、子どもを光と紙の間に立たせて、横顔が紙に映し出されるようにします。
- ・その子の影の輪郭をなぞります。
- ・年上の子どもたちはその線に沿って紙を切ります。小さな子どもには大人の助けが必要かもしれません。
- ・切り抜いた影を「私は、言うことやすること全てで神さまを礼拝したいです」と書いた看板の近くの壁か掲示板に貼ります。

◎ 話し合しましょう

- ・「私たちの影は、どんなところが似ていますか。どんなところが違いますか。」
- ・「私たちの影は皆違ってしています。そして、神さまのために使うことができる能力もまた違ってしています。」
- ・「今週神さまのためにどんな能力を使いましたか(何人かの子どもたちに聞きます)。」
- ・「神さまに与えられた能力を使って礼拝するとき、どんな気持ちになりますか。」
- ・「今日のメッセージをいつも覚えていてください。」
- ・「今日のメッセージを言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまの働きのために私の力を用いることは、
神さまを礼拝するのと同じです。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょ。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備: 先週つった献金箱

- ・「伝道地便りを聞いて、(今期の十三回献金の送り先)が何を必要としているかがよくわかりましたね。」
- ・「どうやったらその人たちを助けることができるでしょうか(献金を送ることで、様々な能力を持った宣教師を送ることで)。」
- ・「その人たちを助けてあげるのに、大きくなるまで待つ必要はありません。今すぐに、献金することで助けることができます。」
- ・「献金を集めましょ。」

◎ お祈り 準備: バスケット、鉛筆、小さな紙

- ・子どもたちは、紙に、自分が上手にできること(能力)を文字や絵でかきます。
- それからその紙をバスケットに入れます。
- ・「今からイエスさまに、私たちの能力を使うことでイエスさまを礼拝したいと伝えます。」
- ・手をつないで輪をつくりましょ。
- ・紙の入ったバスケットをその輪の中心に置きます。
- ・子どもたちは順番でイエスさまに、「私は(能力の内容)を使ってあなたのお仕事をすることで、あなたに仕えたいです。」と言いましょ(先生の後についてなら言える子どももいるでしょう)。
- ・最後に先生が、祈りの課題を祈って終わります。

第8課 神さまのすばらしい家

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A ブロック 準備:プラスチック製のブロック

◎ 活動

・建物をつくることのできるブロックを用意しておいて、子どもたちに教会をつくらせます。

◎ 話し合しましょう

- ・「今日は、ソロモンの神殿と、神さまがご自分の素晴らしい家のために考えた、特別な設計図について学びます。イスラエルの人々は、自分たちの教会を特別な場所にしたいと思っていました。」
- ・「私たちの教会をきれいにするために、私たちにはどんなことができますか(ゴミを捨てる、家具・備品を大切にする、教会掃除を手伝う)。」
- ・「教会に来るときにはどんな態度でいなければなりませんか(感謝をもって、うやうやしく、謙虚な気持ちで、愛をもって、思いやりの気持ちをもって)。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまの家である教会を大切にすることは、

神さまを礼拝するのと同じです。

B 神殿素材のモビール 準備:針金のハンガー、糸か毛糸、マーカー、のり、

10センチ四方の色紙、ボタンやスパンコール、はさみ
ソロモンの神殿に使われたものの絵や模型など

◎ 活動

- ・針金のハンガーを1本ずつ配ります。
- ・テーブルには、工作の材料と、ソロモンの神殿をつくるのに使われたものの絵や模型(木の絵(レバノン杉を表す)、色のついた石(建築用の石材を表す)、金の鎖、天使、やしの木、銅の柱、銅の冠、ゆり、ライオン、雄牛、など)を置いておきます。
- ・子どもたちは色紙を4枚選び、リストからヒントを得ながらその紙に絵を描いたり装飾したりします。
- ・そして、その紙をそれぞれ長さの違う糸か毛糸でハンガーからつるし、モビールをつくります。

◎ 話し合しましょう

- ・子どもたちに、出来上がったモビールを見せてもらいます。
- ・もし可能であれば、天井からつるしましょう。
- ・「人々は、神殿をつくるために、自分の最高の技術と能力を使いました。みんなにも、教会のためになることをするための特別な力が与えられています。」
- ・「それが何か考えてみてください(音楽ができる、お客さんに挨拶する、うやうやしく接する)。」
- ・「私たちは教会をどのように大切にすることができるでしょう(家具・備品を大切に扱う、きれいにしておく、お花や植物を持ってきてきれいにする、ゴミを拾う)。」
- ・「今日のメッセージと一緒に言いましょう。」

メッセージと一緒に言いましょう

神さまの家である教会を大切にすることは、
神さまを礼拝するのと同じです。

◎ 石切工と石工 準備:モザイク用タイルとタイル用枠、

または様々な色の丸石とアルミ製の枠、
グラウト(継ぎ目用セメント)か、白い接着剤

◎ 活動

- ・モザイク用タイルとタイル用枠は、手芸店で買うことができます。
- ・もし手に入らなければ、様々な色の石や丸石と、厚紙やアルミの枠を使います。
- ・子どもたちがモザイクをつくるのを手伝ってあげてください。
- ・石が位置に納まったら、グラウトを流し込んで仕上げます。
- ・もしグラウトが手に入らなければ、白い接着剤を使ってください。
- ・モザイクはしっかり乾かしてから持ち帰ります。

◎ 話し合しましょう

- ・子どもたちの答えを聞きながら質問してください。
- ・「様々な贈り物を持った人々が、ソロモンの神殿の完成に貢献しました。その働きは礼拝の行為でした。」
- ・「私たちも教会に貢献することができます。どうやったら、教会でうやうやしい態度を取ることができるでしょうか(会堂の中で走ったり叫んだりしない、礼拝中におしゃべりしたり笑ったりしない)。」
- ・「どうしたら私たちの教会を大切にすることができるでしょうか(きれいに使う、ゴミを拾う、家具・備品を大切に扱う)。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまの家である教会を大切にすることは、
神さまを礼拝するのと同じです。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備:先週使った献金箱

- ・「世界中で、人々は安息日ごとに集会を開いています。けれども自分の教会の建物を持たない人が多いです。そういう人たちは、誰かの家や木の下に集まっているのです。」
- ・「献金を持ってくることで、そういった教会員たちが教会の建物を建てるのを助けることができます。」

◎ お祈り

- ・「イエスさまにお話しすることも礼拝です。イエスさまは、私たちがイエスさまにお話する礼拝が大好きです。」
- ・「今日何か特別にイエスさまにお話したいことがありますか。」
- ・子どもたちは小声でお祈りするかもしれませんが、黙禱の時間を持つことを提案してください。
- ・最後は大人が祈って終わります。

第9課 礼拝の家

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。



楽器

準備: ふた付きの缶、または空の瓶や筒や箱、または小さなプラスチックの容器

乾燥豆や米または小石、厚手のビニール、紙皿、小さな鈴、
毛糸かりボン、穴あけ用パンチ、マーカー、ひもか輪ゴム、
はさみ、棒、テープ

◎ 活動

- ・安息日前に家で試しておいてください。
- ・つくる楽器をあなたが1つだけ選んでも良いですし、子どもたちに選ばせても良いでしょう。
- ・楽器の材料をそれぞれ別のテーブルに置きます。
- ・大人が各テーブルについて、子どもたちを手伝います。
- ・楽器が出来上がったら、それを使って神さまを讃える歌を歌いましょう。

マラカス

- ・ふた付きの容器を用意します。
- ・缶、瓶、筒、箱、プラスチックの容器などです。
- ・外側に装飾をして、乾燥豆か米か石を中に入れ、封をします。
- ・中に入れる物の量で、マラカスの音が変わります。
- ・たくさん入れると深い音になります。

タンバリン

- ・穴あけパンチか鉛筆で、紙皿の周囲に8つの穴を等間隔に開けます。
- ・その穴に、小さな鈴をつけた毛糸かりボンを通していきます。
- ・紙皿をマーカーで装飾します。

ドラム

- ・空の容器か空き缶に厚手のビニールでふたをし、ひもか輪ゴムで固定します。
- ・容器のサイズや材質で、音が変わります。
- ・ドラムは手でたたいても良いですし、棒や木の鉛筆でたたいても良いでしょう。

木琴

- ・10本の瓶に、それぞれ違った量の水を入れます。
- ・テーブルの上に一列に並べます。

- ・その瓶を硬い棒でたたきます。
- ・水の量で音が決まります。

- ・「今まで私たちは、ソロモンが神さまのために立てた神殿について学んできました。今それは、「ソロモンの神殿」とか、単に「神殿」と呼ばれています。」
- ・「神殿が完成すると、周辺の人々がやってきて、神殿を捧げる特別なお祝いに参加しました。音楽もそのお祝いの一部でした。そのとき使われた楽器の中には、タンバリンやドラム、ハープや、その他の弦を使う楽器がありました。」
- ・「今日はその楽器に似たものをつくってみましょう。何をつくりたいか決めて、自分の必要な物があるテーブルのところに行ってください。」

◎ 話し合しましょう

- ・「自分の楽器をつくるのは面白かったですか。」
- ・「ソロモンの時代の人々は、どうやって楽器をつくったと思いますか。」子どもたちの答えを聞きます。
- ・「今日つくった楽器のうち、一番高い音を出すのはどれでしょう。低い音を出すのはどれでしょう。」
- ・「私たちの教会で、一番よく使われている楽器は何ですか。」
- ・「今までの特別賛美歌で、どんな楽器が使われていたか覚えていますか。」
- ・「音楽は、礼拝でどのような役割を果たしますか。」
- ・「今日のメッセージと一緒に言いましょう。」

メッセージと一緒に言いましょう

全世界にいる神さまの家族と一緒に、私は神さまを礼拝します。

B 契約の箱 準備: 大きな箱(直方体)、はさみ、

15センチほどの棒(箱の長い側よりも長いもの)を2本、
金色の絵の具と絵筆またはスプレーペイントか
(金色のラッピングペーパーとテープも可)

◎ 活動

- ・あらかじめ、箱の向かい合った面(小さいほうの面)の上部に、丸い穴を2つずつ開けておきます。
- ・その穴に棒を通し、担ぎ棒にします。
- ・子どもたちに、契約の箱のレプリカをつくると告げます。
- ・子どもたちは装飾をします。
- ・金色の絵の具かラッピングペーパーを使って、箱を金色に仕上げます。
- ・必要に応じて、2週間前に見た絵について思い出させても良いでしょう。
- ・この箱は、「学ぼう・考えよう」の奉獻の儀式で使うことができます。

◎ 話し合しましょう

- ・「契約の箱のレプリカをつくるのは楽しかったですか。」
- 「今日のお話では、この箱は、出来上がったばかりの神殿に運ばれてきました。様々な場所から多くの人々が集まってきて、この奉獻の儀式に参加しました。そして一緒にお祝いしたのです。」
- ・「今日のメッセージは何でしょう。」一緒に言います。

メッセージを一緒に言いましょう

私は全世界にいる神さまの家族と一緒に神さまを礼拝します。

C 世界の教会家族 準備: 古雑誌、はさみ、のり、紙

◎ 活動

- ・子どもたちは古雑誌から様々な人種の人たちの絵や写真を切り抜き、紙に貼ってコラージュをつくれます。
- ・世界の様々な場所(アメリカ、アフリカ、アジア、など)にいるクリスチャンについて話しましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「神さまを愛し、礼拝している人々が世界中にいることを知っていますか。」
- ・「自分のつくったコラージュを見てください。みんなよく似ていますか。同じ場所に住んでいるように見えますか。」
- ・「今日は、ソロモンの神殿の奉獻に様々な場所から人々が集まってきたように、世界中の人々が神さまを礼拝しているということを学びます。」

メッセージを一緒に言いましょう

私は全世界にいる神さまの家族と一緒に神さまを礼拝します。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入るお話を読みます。

◎ 献金 準備: 献金箱

・「セブンスデー・アドベンチスト教会の仲間たちは世界中に住んでいます。私たちの献金で、外国にいる私たちの『家族』が、人々にイエスさまのことを伝えるのを助けることができます。」

◎ お祈り

・「誰か、イエスさまにお話したいことのある人はいますか(子どもたちの答えを聞きます)。」

・「今日は、今神さまを礼拝している世界中の人たちのことも覚えてお祈りしましょう。」

第10課 にげ出した預言者

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 船づくり

準備: 大きな箱(できたら、家電が入っているような大きい物)、

工作用具、青いシートかブランケット

◎ 活動

- ・子どもたちは、自分が中に座れるような箱を選びます。
(大人数のクラス: グループに分かれて、グループ毎に1つの船をつくります。)
(少人数のクラス: 全員が一緒に座れるような船をみんなでつくります。)
- ・工作用具を配ります。
- ・「今日は、間違った船に乗った人のお話をします。」
- ・「みんなの船は、今期が終わるまで、教室の装飾に使います。そして、プログラムの中で、ここに実際に座ってもらいます。」
- ・船を完成させる時間を取ります。
- ・それから、その船を水を表す青いシートかブランケットの上に乗せ、教室装飾のところに置いておきます。

◎ 話し合しましょう

- ・子どもたちの答えを聞きながら質問します。
- ・「海の旅行をするとき、どんな船が必要だと思いますか。」
- ・「今つくった船は、安全でしょうか。それはなぜですか。」
- ・「今日のお話に出てくる人たちは、船に乗っているときにひどい嵐にあいます。その中に、宣教師で預言者の、ある男の人がいました。神さまはその人を、ある人々が悪いことをしているのを止めさせるために遣わしたのです。」
- ・「宣教師とはなんでしょう。」
- ・「預言者とはなんでしょう。」
- ・「今日のお話では、神さまが、人々にご自分のことを伝えるために遣わした人について学びます。」
- ・詩編40:9を読みます。
- ・「なぜ人々は神さまのみこころを行うことを望むのでしょうか(神さまを愛しているから、神さまがお世話をしてくださるから)。」
- ・「それが今日のメッセージです。先生のために繰り返して言ってください。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまの家族は互いに愛を分け合います。

B 人のくさり 準備: 人数分の紙(21センチ×28センチくらいか、それより大きいもの)、

はさみ、人形の型紙

◎ 活動

- ・「紙を扇子のように四つ折りにしてください。」
- ・「一番上の部分に、人の形を描きます。」
- ・「それからその人を切り抜きますが、両手両足が端とつながるようにしてください。」
- ・「切り抜いたら紙を開きます。人形のくさりができました。これは後で使うので取っておいてください。」

◎ 話し合いましょ

- ・子どもたちの答えを聞きながら質問します。
- ・「人のくさりは、私たちの社会とどんなところが似ていますか。」
- ・「そうですね。私たちもお互いにつながっています。」
- ・「私たちは助け合って、神さまの愛を分かち合います。私たちのすることは、周りの人に影響を与えるのです。」
- ・「自分の属しているグループを挙げてみてください(学校、教会、家庭、クラブ活動、など)。」
- ・詩編40:9を読みます。
- ・「自分に対する神さまのみこころは何だと思えますか。」
- ・「今日のメッセージは、神さまが私たちに望んでおられることを1つ教えてください。先生の後に繰り返して言ってください。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまの家族は互いに愛を分け合います。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょ。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りを読みます。
- ・神さまの愛を周りの人と分け合った人、または神さまのことを知り始めた人が誰かを、子どもたちと確認します。

◎ 献金 準備:先週使った献金箱か、船の模型

- ・「私たちは、神さまへの礼拝として、献金を持ってきます。」
- ・「私たちの贈り物は、人々に神さまの愛について知らせるために使われます。」
- ・神さまの愛を周りの人と分け合えることを感謝する短い祈りを捧げます。
- ・先週使った献金箱か、船の模型で献金を集めます。

◎ お祈り

- ・「今日は、社会について学びます。」
- ・「私たちの社会には、身近な存在の人たちが含まれます。近所の人、お友だち、親せき、教会の人、クラスメートなどです。」
- ・「私たちは神さまの家族の一員なので、周りの人に神さまの愛を表したいと思います。」
- ・「自分の社会の中で、神さまの愛を知ってほしい人を思い浮かべてください。イエスさまがあなたに、その人にイエスさまの愛を伝える良い機会を与えてくださるよう祈りたいと思います。」
- ・シンプルで短いお祈りをします。

第11課 魚の中へ

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 真似っこゲーム

◎ 活動

- ・子どもたちと一緒に輪になって座ります。
- ・「今からある動きをします(手をたたく)。」
- ・「先生の右側にいる人は、先生の動きを繰り返して、それにもう一つの動きを付け加えます。」
- ・「そうやって、輪の中の全員が、前の人までの動きを順番どおりにやって、それに一つ加えていきます。」
- ・「順番を間違えた人には、ゲームから抜けてもらいます。」

◎ 話し合しましょう

- ・子どもたちの答えを聞きながら質問します。
- ・「全部の動きを覚えていくのは簡単でしたか。」
- ・「間違えてしまったとき、どんな気持ちになりますか。」
- ・「自分が間違えてしまったということを、周りの人に伝えるのは簡単ですか。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょ。」

メッセージを一緒に言いましょ

私が自分の犯した過ちを認め、直すことができるように、

神さまは助けてくださいます。

B ごめんなさい 準備: 細長い紙、ペンか鉛筆、金魚鉢

◎ 活動

- ・安息日の前に、細長い紙に次のような短いシナリオを描いて、金魚鉢に入れておきます。
- ・子どもたちは順番に金魚鉢から紙を引き、そこに書いてあることを演じた後、どうやってそれを正していくかも示します。

- 1 お母さんの大切にしているお皿を間違えて割ってしまった。
- 2 妹のボールを無くしてしまった。

- 3 自転車の置き場所について、お父さんと言い合いをした。
- 4 自分のベッドの上に、弟が何か置いていった。それを床に落として壊してしまった。
- 5 近所の人に、別の近所の人のお話を聞いてしまった。
- 6 お菓子入れのクッキーを全部食べてしまった。
- 7 学校のグラウンドで誰かに押し倒されそうになったので、その人を押し返した。

◎ 話し合しましょう

- ・子どもたちの答えを聞きながら質問します。
- ・「間違っただけをやってしまったとき、どんな気持ちになりますか。」
- ・「自分が間違っていたと認めるのは簡単なことですか。それはなぜですか。」
- ・「物事を正すのを手伝ってくださるのはどなたでしょう。」
- ・ヨハネ1・1:9を読みます。
- ・「『真実で正しい』とはどういう意味ですか。『不正』とはどういう意味ですか。」
- ・「神さまは私たちのする間違いを全て許してくださるのでしょうか。わざとやったことではどうでしょう。」
- ・「神さまは、私たちが本当に悪かったと思うなら、どんな罪でも許してくださることを強調してください(見つかってしまったのが悪かった、というのはナシです!)」
- ・「今日のメッセージと一緒に言いましょう。」

メッセージと一緒に言いましょう

私が自分の犯した過ちを認め、直すことができるように、
神さまは助けてくださいます。

◎ 本当にごめんなさい 準備: 紙、マーカー、ゴミ箱

◎ 活動

- ・紙とマーカーを配ります。
- ・「最近してしまった悪いことについて、それがわかるような絵か言葉をかいてください。」
- ・「その紙は誰にも見せないようにしてください。」
- ・時間を取り、必要に応じて大人が手助けします。
- ・ゴミ箱を部屋の真ん中に置きます。
- ・子どもたちは、自分のかいた紙を破ってゴミ箱に捨てながら、「ごめんなさい、もうしないようにします。」と言います。

◎ 話し合しましょう

- ・子どもたちの答えを聞きながら質問します。
- ・「自分の間違いに気づくのはどんな気持ちですか。」
- ・「それを誰にも知られないと嬉しいですか。」

- ・「悪いことをしてしまったと認めるのは簡単なことですか。」
- ・ヨハネ1・1:9を読みます。
- ・「誰かを傷つけてしまったら、その人との関係は変わってしまうことが多いです。けれども私たちと神さまとの関係は決して変わりません。」
- ・「私たちが助けを求めると、神さまはその痛みを取り去ってくださいます。そして私たちの罪を忘れてくださいます。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

私が自分の犯した過ちを認め、直すことができるように、
神さまは助けてくださいます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・「今日の伝道地便りの中で、〇〇さんがどうやってイエスさまの福音を伝えたかを見ていきましょう。」
- ・子どものための伝道地便りを読みます。

◎ 献金 準備:海に関係した物

- ・海に関係した物を献金入れに使ってください。

◎ お祈り

- ・子どもたちに、関係を修復したい人について考えさせます。
- ・「神さまのお助けにより、私たちは自分の間違いを認めることができます。」
- ・「そして、お願いするなら、神さまはいつでも私たちを許してくださいます。」
- ・黙禱の時間を取ります。
- ・それから、「私たちが自分の間違いを認め、それを正していくことができるように助けてください。」と、声に出してお祈りします。

第12課 暗がりから外へ

教室の入り口で生徒たちを迎えます。
どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。
お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 仲間はずれ

◎ 活動

- ・何人かの生徒を残し全員が手をつないで輪をつくります。
- ・残された何人かは輪の外側に立ちます。
- ・輪を作っている1人の耳元で、「神さまはあなたを愛していて、あなたを救おうとしておられます。」とささやきます。
- ・その子はそれを自分の隣の子にささやき、そうやって次々に隣の子にメッセージを伝えていきます。
- ・輪の外にいる子どもたちに、輪に入ってメッセージを聞くように言います。
- ・輪の中の子どもたちは輪に入れまいとします。
- ・もう1度、同じ言葉を輪の中で回します。
- ・今回は、外にいた子たちにも輪に加わってメッセージを聞いてもらいます。

◎ 話し合しましょう

- ・「今の活動から、周りの人への接し方についてどんなことを学びましたか(メッセージを伝えているときに仲間はずれにするのは感じが悪いということ、輪の外にいる人のことも気にかけていけないということ)。」
- ・「輪の外にいるというのはどんな気分でしたか(輪の中の人たちが気づいてくれなかった、みんな意地悪だった)。」
- ・「輪の外にいる人を仲間はずれにして、メッセージを伝えないでいるのはどんな気分でしたか(意地悪しているようで悪いなどと思った)。」
- ・「友だちの輪の外にいる人たちに、これからどうしてあげたいと思いますか(自分が言ったりしたりすることに、その人も入れてあげたいと思う)。」
- ・「今日は、周りの人を気遣って、神さまの救いの知らせを伝えましょうということを学びます。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

私が救いの知らせを人々に伝えられるように、

神さまは助けてくださいます。

B

大きな町

準備：大都市の写真、大きな箱かブロック

◎ 活動

- ・子どもたちに大都市の写真を見せます。
- ・それから、箱かブロックを使って町を「建設」させます。
- ・この町は後で「学ぼう・考えよう」で使います

◎ 話し合しましょう

- ・子どもたちの答えを聞きながら質問します。
- ・「旅行中に、遠くにある大きな町を見たことがありますか。」
- ・「行ったことのある大きな町の名前を覚えていますか。」
- ・「大きな町にいるのは好きですか(とても混んでいるので好きではない、楽しいことがたくさんあるので好き)。」
- ・「神さまは町にいるたくさんの人たちを愛しておられます。今日のお話では、ある説教者が町に行って、神さまからのメッセージを伝えます。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

私が救いの知らせを人々に伝えられるように、

神さまは助けてくださいます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りを読みます。
- ・「今日のお話は、神さまの救いの知らせを人々に伝えた〇〇さんについてです。」と言ってから読み始めても良いでしょう。

◎ 献金

準備：人の顔か頭のように見えるよう装飾した箱。

口の部分を切って、開く。(唇をつけるのも忘れないでください)

- ・子どもたちは献金箱の口の部分から献金を入れます。
- ・私たちの献金は、神さまの救いの知らせを〇〇(13回献金の送られる場所)の人々に伝えるため

に使われるということを説明してください。

◎ お祈り

- ・輪になって手をつなぎます。
- ・まずは黙禱の時間を持ち、子どもたちはそれぞれ、自分の知り合いでイエスさまを知らない人のために祈ります。
- ・それから希望者が、このクラスの人たちが救いの知らせを人々に伝えることができるよう助けてください、とイエスさまにお祈りします。

第13課 虫が教えたこと

教室の入り口で生徒たちを迎えます。

どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。お話の前に、状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 葉っぱの拓本 準備:トレーシングペーパー、木か草の葉(乾燥していないもの)、はさみ、色鉛筆かクレヨン

◎ 活動

- ・子どもたちは葉をテーブルに置き、その上にトレーシングペーパーか色紙を乗せます。
- ・それから色鉛筆かクレヨンで紙をこすり、葉の拓本をつくります。出来上がった拓本を切り抜きます。

代替案:子どもたちは緑の紙に葉の形を描いて切り抜きます。

◎ 話し合しましょう

- ・「一番好きな植物は何ですか(子どもたちの答えを聞きます)。」
- ・「今日のお話には、ある植物が出てきます。今つけたこの葉っぱがお話とどう関係があるのか、よく聞いていてくださいね。」
- ・「これは私たちに今日のメッセージについて教えてください。一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまの家族に新しい仲間が加わる時、私は喜びます。

B 来てくれて嬉しいです! 準備:小さなプレゼントを人数分

◎ 活動

- ・子どもたちは、誰かの方を向いてその人の名前を呼び、握手をして、「ここに来てくれて嬉しいです!」と挨拶します。
- ・これを最低5人にするように言いましょう。
- ・自分の知らない人に挨拶するように促します。
- ・それから全員に小さなプレゼントを渡します。

◎ 話し合しましょう

- ・「どうしてプレゼントをあげたと思いますか(私たちのことが好きだから、気が向いたから)。」
- ・「それは、みんなが来てくれてとても嬉しかったからです。」
- ・「特別な理由がないのにプレゼントをもらうのはどんな気分でしたか(愛されていると感じた、びっく

りした、なぜだろうと思った。)」

- ・「お友だちに歓迎されたときどんな気持ちになりましたか(いい気分)。)」
- ・「もし安息日学校にお客さまが着たら、どうしますか(喜ぶ、その人を歓迎する)。)」
- ・「今日のお話では神さまの家族に加わった人を歓迎することを学びます。」
- ・「今日のメッセージを一緒に言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまの家族に新しい仲間が加わる時、私は喜びます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・生徒たちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・お誕生日や特別な出来事、何かをやった成果などを発表します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎しましょう。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りを読みます。
- ・「お話の中に、神さまの家族に加わった人はいましたか。それを聞いてどんな気持ちになりましたか。」

◎ 献金 準備:先週使った献金入れ

- ・献金入れの口元を微笑ませ、神さまの家族に新しい仲間が加わって喜んでいる様子を表します。
- ・子どもたちはその微笑んでいる口の部分から献金を入れます。
- ・「私たちの献金は、人々が神さまの家族に加わるよう招くために使われます。喜んで神さまに献金を捧げましょう。」
- ・コリント2・9:7を読みます。

◎ お祈り 準備:「いかり」の形をした切り抜き

- ・子どもたちに、今日教会に来た人たちについて、名前をあげて感謝するように促します。
- ・「イエスさま、今日教会におばあちゃんが来たことを感謝します。」「いとこが来たことを感謝します。」など、声に出して祈ります。
- ・最後に、神さまの家族とともに礼拝する仲間が増えたとき、喜ぶことができるようお願いして終わります。